

当院にて片側性唇顎口蓋裂の手術および歯科矯正治療を受けられた方へ

このたび、5-year-olds' Index という指標を用いた歯列模型の評価と、X線セファロ写真の分析を行い、片側性唇顎口蓋裂の手術の評価とその後の歯科矯正治療との関連性を調査することとなりました。調査には4～6歳時の歯列模型とX線セファロ写真、13～15歳時の歯列模型とX線セファロ写真を使用し、縦断的に歯列の評価と骨格的な評価を行います。これにより、当部の治療プロトコルをより良いものにしていきたいと考えています。

【対象となる方】

1980年1月1日以降、当院にて片側性唇顎口蓋裂の治療を受けられたことがある方

【研究の意義】

片側性唇顎口蓋裂の治療では、まず初めに口唇形成術と口蓋形成術を行いますが、術式や術前管理などの違いがその後の顎骨発育や不正咬合の発現にどう影響するかについてはいまだに明確になっていません。さらに上下顎骨の前後的位置関係や歯列形態に対する歯科矯正治療によって、どのような治療効果が得られているかという点も明確ではありません。当部では片側性唇顎口蓋裂の歯科矯正治療は主に5歳時から開始しています。そこで、歯科矯正治療開始前の乳歯列期から永久歯列完成期まで、縦断的に歯列形態と顎骨の評価を行うことで、口唇形成術と口蓋形成術の術後評価と、その後の歯科矯正治療介入による変化を見出し、今後のチーム医療の改善に繋げてまいります。

【研究の目的】

口唇形成術と口蓋形成術の術後評価と歯科矯正治療介入による変化に着目し、従来行われてきた治療を評価します。

【研究の方法】

この研究は東北大学大学院歯学研究科研究倫理専門委員会の承認のうえ実施されます。これまでの診療でカルテに記載されている手術、歯科矯正治療の記録、歯列模型やX線セファロ写真といった歯科矯正検査結果などのデータを収集して行う研究です。特に患者さんに新たにご負担いただくことはありません。

この研究のためにご自分のデータを使用してほしい場合は主治医にお伝えいただくか、下記の問い合わせ先まで、平成27年12月31日までにご連絡ください。ご連絡いただかなかった場合はご了承いただいたものとさせていただきます。

研究結果は全症例の集計結果として学会等で発表いたしますので、個人が特定されることはありません。収集したデータは厳重な管理のもと、研究終了後5年間保存されます。

なお研究データを統計データとしてまとめたものについては、学会等で発表した後に開示しますので下記までご連絡ください。ご不明な点がございましたら主治医にお尋ねください。

平成 27 年 11 月

【研究機関名】

東北大学病院 顎口腔機能治療部

東北大学病院における本研究に必要な資金は、顎口腔機能治療部の運営費を用います。調査対象者への謝金はございません。

【問い合わせ・苦情等の連絡先】

東北大学病院 顎口腔機能治療部 教授 五十嵐 薫

住所：宮城県仙台市青葉区星陵町 1 - 1

電話：0 2 2 - 7 1 7 - 8 4 1 2